

学校紹介

日之影町立高巣野小学校 田崎 智章

日之影町は、美しい山々に囲まれ、深い渓谷には澄み切った水が流れるなど、自然豊かな土地である。本校は、北西に阿蘇山を望むことができ、天孫降臨の地、高千穂町に隣接している。また、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」さらに「世界農業遺産」に登録された太陽と棚田、渓谷と橋の美しい風景が点在する中にある。



本校は、明治33年に開校し、現在は複式を有する児童数26名の小規模校である。昭和62年に完成した校舎は、独特の形状をしており、美しい自然と調和したものとなっている。しかし、年々児童数が減少してきており、また新型コロナウイルス感染症の影響もあり、以前のような地域との結びつきが薄れつつある。そのような実態ではあるが、本町や本校の特色ある教育活動をいくつか紹介したい。

1 ひのかげ「つなく」学習

「日之影町教育の日」は、町内の小学校及び中学校での授業公開を通して、保護者及び地域の方々の学校教育への理解をより一層深め、地域とともにある学校づくりの一助とすることを目的とした取組である。小学校の場合は、町内の3校が一堂に会し、普段の少人数と違う同学年の集団の中で、日頃の学習の成果を発揮する場とするとともに児童のコミュニケーション能力の育成を図り、交流を深める(つながる)機会としている。

また、その他にも合同社会科見学(3,4年)、連合宿泊学習(5年)、連合修学旅行(6年)、学校と地域をつなぐ小・中学校音楽祭等も実施している。さらに、本年度よりキャリア教育推進に向けて5,6年生を対象とした「職場体験学習(ひのかげわくわくWORK)」に取り組んでいる。

2 学校運営協議会への児童の参加

本校では、昨年度より学校運営協議会に6年生児童が参加する機会を設けた。実施してみて、よりよい学校にするために児童代表の6年生が委員や保護者及び学校職員と協議することは、大変意義深いと感じる。委員や保護者からも「子どもの素直な意見を聞くことができ大変貴重な時間となった」などの肯定的な意見が聞かれた。



3 地域交流型運動会

コロナ禍以前には、校区を3つに分け、住民が競う対抗戦と児童の競技を合わせ、合同運動会として行ってきた。児童、保護者はもちろん、幼児から中高生、青年、高齢者まで参加する大きな催しであったが、前述の通りコロナ禍を機に中止となっている。復活を望む声がある一方、地区によっては住民の減少、高齢化で参加できない状況も進行している。



そこで、学校運営協議会の中で「地域とのよりよきつながり」をテーマに住民との交流の場となる運動会の在り方を熟議してきた。本年度より、地域の方々が足を運びやすくなるような広報活動の充実・改善、参加しやすい競技の選定等を行い、新たに地域ふれあい運動会として歩み始めた。本年度の反省を今後に生かしながら地域とつながる学校行事となるようしていきたい。